

## 緊急報告

前略、歯周内科学研究会特別会員である床矯正研究会主幹の鈴木設矢先生の医院におきまして、きわめてまれな副作用が発生いたしました。ジスロマックによると思われる薬疹が起きたのですが、**急性汎発性発疹性膿疱症 (AGEP) 型という臨床型**です。

主因薬剤は抗菌薬（β-ラクタム系、マクロライド系）が多くを占めるようです。診療を担当された田中幹久先生は冷静にデータの収集と、ファイザー社への問い合わせ等を行われ、患者さんは皮膚症状等回復に向かっています。

今回の副作用は極めてまれな副作用とはいえ、国際歯周内科学研究会においてだけではなく、日本の歯科治療において初めて発生した副作用であります。

薬剤はその有効な作用と副作用を併せ持っています。歯周病患者さんにとって、ジスロマックはきわめて有効な薬剤であることは、私たちの診療室においても大学の研究においても明らかであります。私たちは、ジスロマックという薬剤をいかに安全に、患者さんのために使用するかを考えなくてはなりません。そして、私たちは、薬剤を扱う職種として、常に、このような副作用と隣り合わせであることを自覚し、その場に直面したときに冷静でかつ患者さんに対しては心からの対応をしなければなりません。

歯周内科治療は、今後、大きく発展していくと思われませんが、この時期にこのような副作用が発生し、迅速で冷静な対応がなされたこと、良識ある患者さんであったこと、患者さんが無事回復されたことに運命を感じています。今回の発表はとても貴重な講演になると思います。

**4月22日（日）の総会において、スケジュールを一部変更し、診療を担当された田中先生に症例報告・状況報告をしていただきます。**

今後の先生方の診療室における歯周内科治療の安全な治療のお役に立つことと思われまますので、是非、ご参加いただきますようお願いいたします。

有限責任中間法人 国際歯周内科学研究会 代表理事 生田図南